

# 横浜市立瀬谷小学校 平成31年度 体育・健康プラン

## ～体育・健康に関する指導の全体計画～

### 1 中期学校経営方針

#### (1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
○子供・教職員・保護者・地域が自信と誇りをもてる学校を創ります。	
・常に子供の心を育てることを意識して活動に取り組み、明るく、正しく生き生きと生活できる子供育成を目指します。	
・子供が主人公のわかる、できる楽しい授業を創るとともに、自学を推進し、学力の向上を目指します。	
・話をしっかりと聴く習慣、掃除に一生懸命取り組む姿勢、友達と声をそろえて歌う等当たり前のこと自然にできるように、教職員が思いを共有して、指導します。	
・バディ活動等により、相手を思いやる心や自己有用感を育て、あたたかく楽しい学校生活を送れるようにします。	

#### (2) 体育・健康に関する指導の重点取組分野・取組目標・具体的取組

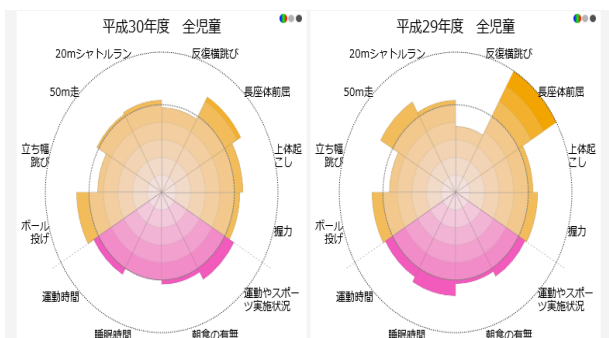
重点取組分野	取組目標	具体的取組
健やかな体	子どもの実態から課題を明確にし、体育科の授業を中心としながら、教育活動全体を通して健やかな体の育成を目指す。	① 運動量を意識した体育授業の改善をしていく。 ② 運動委員会から提案される体力アップ企画を推進する。 ③ 外遊びを推進するとともに、運動内容の充実を図る。 ④ 栄養教諭を中心に、食育の推進をする。
担当	体育部	

### 2 体育健康に関する実態把握

#### (1) 体育・健康に関する実態

- ・朝食はどの学年も90%近くの児童が毎日食べている。一日の睡眠の時間が8時間以上の児童は低学年ほぼ70%を超えているが、中高学年になると50%～60%近くになっている。
- ・体育の授業を除いた運動やスポーツの実施状況は、週1～2、週3日以上を合わせると度の学年も80%以上になるが、月に1～3日、全くしないに答えた児童が15%近くいる。
- ・1日のテレビ(テレビゲームを含む)視聴時間が2時間以上の児童が40%いる。
- ・年間を通して校庭で遊ぶ児童が多い。しかし、児童数に比べて校庭の面積が狭いので遊び方のルールなどを決めて安全面に配慮をしている。
- ・給食の残量は全体の3%ほどで、昨年よりは多いので給食委員会で残量を減らす取り組みを計画している。

#### (2) 体力の概要と要因の分析(小学校は全校配付の体力・運動能力調査分析チャートを活用)



新体力テストの結果から、2つの項目以外で市平均を超える記録が出ている。しかし、立ち幅跳び、反復横跳びにおいては、1年生以外、平均を下回っている。反復横跳びは昨年度より全体的に良い記録となった。立ち幅跳びにおいては、普段から跳ぶという動作に慣れていない児童が多いということも考えられる。体育学習や遊びの中での経験を増やしていきたい。

### 3 体育・健康に関する具体的取組

#### 教科

##### 《体育科・保健体育科での取組》

- 各運動領域においてそれぞれの運動の特性にふれ、友達との学び合いを生かしながら子どもたちが思考をしたり技能を高めたりできるようにする。
- 保健領域では、子どもたちが学習内容をより自分事として捉えながら学習をしていけるような単元構成を工夫する。

##### 《他教科での取組》

- 家庭科では、食育との関連を図る。栄養教諭にも関わってもらい栄養バランスなどの理解を深められるようにする。
- 生活科・理科では、生命の尊さも指導できるようにする。

#### 道徳・特活・総合

- セヤリンピックでは、子どもたちが運動に主体的に取り組めるようにしていく。異学年交流の良さを生かし、バディとの交流を深めながら協働的に活動を進めていけるようにする。そしてみんなで創り上げたという達成感を味わえるようにする。
- 新体力テストでは、自分の体力を知り、さらに目標をもって努力する姿勢を育てられるようにする。
- 道徳では、学び合いにつながる「人との関わり」において実体験をもとに考え、学び合いの態度を育てていけるようにする。
- クラブ活動を通して、他学年との交流を大切にしながら目標に向かって自分から進んで取り組み、仲良く活動できるようにする。

#### 課外活動

- 学校保健委員会の取組
- 運動委員会による体力アップ企画の取組
- 給食委員会による給食週間の取組
- 夏季特別水泳
- 体育大会前の特別練習

#### 平成31年度 瀬谷小学校 体力向上1校1実践運動

《名称》 外遊びの充実による体力向上プロジェクト

《ねらい》 運動場所、跳の運動機会の確保、

《内容》 休み時間の運動的内容の充実を図る。

- 外遊びを奨励する。天気の良い日は、全児童が外に出て様々な遊びに取り組めるようにする。また、教師も子どもたちと一緒に遊びながら、見通しをもって自主的に活動できるようにしていく。ロング昼休みは、クラスレクや異学年交流の活動の時間として有効的に活用していく。
- 児童が様々な種類の運動に取り組めるようにする。運動委員会が中心となり、体力テストの結果をもとに体力アップの企画をして全校児童の運動機会を増やしていく。

●指 標：①休み時間の子どもの利用状況の確認

②新体力テストの結果からの検証

③生活実態調査からの検証